



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

岡山県 岡山市立岡輝中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：小塚 崇彦 先生（スケート／フィギュアスケート）
【出場オリンピック／バンクーバー2010冬季大会】

■期 日：2024年7月10日(水)
■ク ラ ス：2年A組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・スケート／フィギュアスケート競技でバンクーバー2010冬季大会に出場したと自己紹介。フィギュアスケートを見たことがあるか、スケートリンクに行ったことがあるかを問いつけると、多くの生徒が手を挙げる。運動の時間はルールをよく聞いて、隠されたヒントを見つけてほしいと伝え、準備体操に移る。

○主運動等



・準備運動として、新聞紙じゃんけんバランスを実施(全2回)。新聞紙の上に立ち、小塚先生とじゃんけんを行い、負けたら新聞紙の上に立ったまま新聞紙から降りずに新聞紙を折る。新聞紙の上に立っていられなくなったらその場に座る。各自新聞紙を折った回数を数え、最後に班全員が新聞紙を折った数の合計回数を競う。

・主運動として、ボール渡しリレーを実施(全2回)。班に分かれ、バレーボールを渡しながら折り返し地点のコーンを回って戻り、順位を競う。ボールは全員で回し、全員がゴール地点に戻り、座って手を挙げた時点でゴールとする。



・運動の時間を振り返り、主運動では、スタートからコーンを回ってゴールをするまでに、全員がボールを触って次の人に渡すこと、全員が折り返し地点のコーンを回ること、全員がゴール後、座って手を挙げたらゴールというルールの中で効率のよい方法を考えてもらった。折り返し地点のコーンを回らずにゴールした可能性のある班もあったが、ルールを守ることの大切さも含めて、次の座学の時間ではオリンピックバリューについて、一緒に詳しく考えていきたいと伝え、授業終了。

■オリンピック：小塚 崇彦 先生（スケート／フィギュアスケート）
【出場オリンピック／バンクーバー2010冬季大会】

■期 日：2024年7月10日(水)
■ク ラ ス：2年A組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・スケート／フィギュアスケート競技でバンクーバー2010冬季大会に出場したと自己紹介。オリンピックシンボルについて、5つの重なりあった輪は五大大陸を表し、5つの輪の色と背景の白を合わせた6色でほぼ全ての国旗を描けることから、世界のつながりや世界平和を意味している。映像の冒頭で恩師が自分の背中をポンと叩く場面は、おまじないのようなものであり、信頼している先生に背中を叩いてもらうことで競技へ挑む勇気が湧いた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：大山登山、体育祭、文化発表会の中からオリンピックバリューにつながるものをグループで考えてみよう。
発表：エクセレンス：「作戦を立てる」「一生懸命頑張る」「バトンを立てて渡す」「走順を調整した」「タイムを上げる」等
フレンドシップ：「協力する」「チームワーク」「声掛け」「仲間を応援」「息を合わせる」「お互いに助け合う」等
リスペクト：「フライングしない」「勝ったチームに拍手」「強いチームを参考に作戦を立てる」「土台の人を信用する」等



・座学の時間を振り返り、個人ワークやグループワークで皆が考えた事柄が、エクセレンス、フレンドシップ、リスペクトのどれに当てはまるかについては、人それぞれの考え方や捉え方に違いがあるため、正解・不正解はない。皆の日常生活の中でオリンピックバリューを見つけて、今後の生活に活かしてほしい。7月に始まるパリ2024大会、そして半年後の2025年1月から岡山市等で開催される国民スポーツ大会に向けて、選手達は日々頑張っているため、是非応援してほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：小塚 崇彦 先生 (スケート/フィギュアスケート)
【出場オリンピック/バンクーバー2010冬季大会】

■ **期 日**：2024年7月10日(水)

■ **ク ラ ス**：2年B組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・スケート/フィギュアスケート競技でバンクーバー2010冬季大会に出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンスは卓越、前回よりも今回が良くなるように頑張ること、フレンドシップはチームの仲間との友情を活かして様々な運動に取り組んでほしい、リスペクトは敬意/尊重、ルールを守ること。運動の時間はルールをよく聞いて、その意味をしっかり考えてほしいと伝え、準備体操に移る。

○主運動等



・準備運動として、新聞紙じゃんけんバランスを実施(全2回)。新聞紙の上に立ち、小塚先生とじゃんけんを行い、負けたら新聞紙の上に立ったまま新聞紙から降りずに新聞紙を折る。新聞紙の上に立っていられなくなったらその場に座る。各自新聞紙を折った回数を数え、最後に班全員が新聞紙を折った数の合計回数を競う。

・主運動として、ボール渡しリレーを実施(全2回)。班に分かれ、バレーボールを渡しながら折り返し地点のコーンを回って戻り、順位を競う。ボールは全員で回し、全員がゴール地点に戻り、座って手を挙げた時点でゴールとする。



・運動の時間を振り返り、2回目はボールを下に落とした場合はスタート地点に戻ることと、着順のポイントを2倍にするルールに変更した。ルールを守りながら、その中でその意味を理解し、考え、より良い方法を話し合ってもらった。次の座学の時間ではオリンピックバリューについて、一緒にさらに詳しく考えていきたいと伝え、授業終了。

- **オリンピック**：小塚 崇彦 先生 (スケート/フィギュアスケート)
【出場オリンピック/バンクーバー2010冬季大会】
- **期 日**：2024年7月10日(水)
- **ク ラ ス**：2年B組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・スケート/フィギュアスケート競技でバンクーバー2010冬季大会に出場したと自己紹介。フランスの教育学者であるクーベルタンは、古代オリンピックに感銘を受けて近代オリンピックを創設した人物で、近代オリンピックの父と呼ばれている。理想とする人間像について、自己を知り、自己を律し、自己に打ち克つことのできる人間であるとし、スポーツを通してより良い世界を作りたいと考えた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：大山登山、体育祭、文化発表会の中からオリンピックバリューにつながるものをグループで考えてみよう。
 発表：エクセレンス：「前回の記録を超える」「諦めずに頑張る」「作戦を立てて全力で挑む」「何回も練習した」等
 フレンドシップ：「皆で助け合いながら登った」「ペアの人と息を合わせた」「補給食を分けてもらった」「クラスの絆」等
 リスペクト：「ペースを守って登った」「フライングしない」「全員が楽しめるようにルールを守った」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックは遠い存在のように感じるかもしれないが、オリンピックバリューを見て分かるように、その考え方は皆の生活の中にも存在する。学校生活において、テストで良い成績を残せるように一生懸命勉強し、分からない問題は友達と協力して教え合い、カンニングをせずルールを守って取り組んでいることはオリンピックバリューに当てはまる。日常生活の中で多くのオリンピックバリューを見つけて、今後の生活に活かし、より良い人生を送ってほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年A組



・2年B組



■記念品贈呈

・2年A組



・2年B組



■修了証贈呈

